

- 花き業界では「季節感」や「自然な雰囲気」を演出する「枝物」「草花」の人氣が高まっている。「枝物」「草花」は低コスト・省力で栽培できることや獣害に遭いにくいことから、園芸品目が乏しく、獣害が拡大する当地域での新たな園芸品目に適していると判断し、現地普及に取り組んだ。
- 「枝物」「草花」の新規栽培者の発掘と育成のために「枝物・草花栽培講座」を開講した。
- その結果、受講者数は延べ60名を超え、「枝物」「草花」の出荷に向け、新規栽培者が生まれている。

具体的な成果

1 枝物・草花栽培講座受講者の増加

■講座の受講者数は年々増加している。

表1 本講座受講者数の推移

	入門編	実践編	計
令和2年度	35	—	35
令和3年度	19	47	66
令和4年度	16	63	79

2 推奨品目の選定及び現地普及の拡大

■早期出荷を目指すため、現地普及を図る品目（推奨品目）を指定したことにより、新規植栽が拡大。

表2 夷隅管内での枝物・草花の植栽状況※

品目	栽培者数	植栽本数
アメリカリョウブ	6	42
コバノズイナ	8	102
ヒュウガミズキ	6	42
パンパスグラス	22	291

※ 令和4年4月時点

普及指導員の活動

令和2年度

■枝物・草花栽培講座を開講した。枝物・草花栽培に対する受講者の関心が高かったため、次年度以降も継続して開講。

令和3年度

■講座を＜入門編＞と＜実践編＞に分けて開講、新規栽培者の発掘と育成に取り組んだ。

■早期出荷を目指すため、栽培品目を絞って提案した（推奨品目）。推奨品目の栽培技術と繁殖技術を栽培マニュアルにまとめた。

令和4年度

■パンパスグラスの市場出荷を開始、地元JAと連携し出荷体制の整備に着手。

普及指導員だからできたこと

・課題の抽出、講座の企画、栽培する品目の選定、栽培技術の指導等、網羅的に取り組んだ。

・「枝物」「草花」栽培を、栽培技術の紹介だけでなく、地域の実情や潜在的な農村のニーズに合わせた形で提案できた。

千葉県

～いすみの野山でしごとづくり～枝物・草花栽培講座 —続・いすみ農業実践塾の取組—

活動期間：令和2～継続中

1. 取組の背景

近年、花き業界では「季節感」や「自然な雰囲気」を演出するドウダンツツジやハナモモなどの「枝物」や、パンパスグラスなどの「草花」の人気の高まっている。これら「枝物」「草花」は低コスト・省力で栽培できることや、遊休農地でも栽培できることから、園芸品目に乏しい夷隅地域の新たな園芸品目として期待できるため現地普及に取り組んだ。

2. 活動内容（詳細）

（1）いすみ農業実践塾の見直し

夷隅農業事務所では平成22年度から定年帰農者等を対象に「いすみ農業実践塾（以下、実践塾）」を開講してきた。これは、定年帰農者等が農業技術・知識を学び、就農する意欲を醸成することを目的とし実施してきた。しかし、令和2年度に新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言の発令があり、従前の実施内容での開講が困難となった。これを契機に、実践塾の開講方式の見直しに加え、新たな園芸品目づくりと産地化を目的とした「枝物・草花栽培講座」の開講を企画した。



写真1 枝物・草花栽培講座入門編の様子
（枝物コバノズイナ出荷物を見て学ぶ）

（2）枝物・草花栽培講座（以下、本講座）の開講

本講座の企画段階では、当地域には枝物・草花の栽培者もおらず、出荷実績もなかった。このため、枝物・草花栽培は全く新しい提案となり、既存の農業者は受け入れにくいと予想した。そこで、本講座のメインターゲットを以下の3つ①定年退職世代で田畑を保有する方②移住者等で田畑を保有する方③時間にゆとりのある方、に設定し、夷隅郡市内2市2町及び地元JA広報誌に講座案内を掲載した。

（3）講座開催方法

潜在的な枝物・草花栽培希望者を発掘する「入門編」と、「入門編」受講者を栽培者に育成するための「実践編」に分けて実施した。

「入門編」は、「枝物・草花って何?」「どうやって栽培するの?」「どれくらい売上があがるの?」など、枝物・草花を知る・興味を持つための内容で年1回開講し、「入門編」を受講し栽培を始めたいと思った方が「実践編」に進む方式とした。

「実践編」は、枝物・草花を実際に栽培し出荷するまでの技術・知識を習得する内容で行った。具体的には枝物・草花の増殖技術（挿し木）や植栽準備、施肥管理等の栽培技術など、座学＋実習形式で実践的な内容で実施した。

（４）現地普及を図る枝物・草花品目の選定及び栽培・繁殖技術の確立

将来の生産・出荷体制の整備を想定し、品目数を絞って現地普及を図ることとした。そこで、現地課題調査研究事業を活用し、卸売市場調査、先進事例調査及び各種文献を調査し、①花材として人気が高まっているもの②夷隅地域の気象・土壌環境に適するもの③高木化しないもの（栽培が放棄された場合でも後処理が容易なこと）の3条件に合致する品目を選定し、本講座の「推奨品目」として位置付けた。また、推奨品目の栽培面積拡大のためには、優良な苗が大量に必要となるが、推奨品目の苗は潤沢に流通していない。そこで推奨品目の簡易的かつ実用的な増殖方法の検討も併せて行った。

（５）活用した関連事業

ア 現地課題調査研究事業（令和２～４年度）

卸売市場での枝物・草花品目の調査を行い、推奨品目を選定した。また、推奨品目の挿し木等の繁殖技術の調査を行った。

イ 小規模農家等支援事業（令和２～４年度）

推奨品目の展示ほを設置し、推奨品目の植栽作業や生育観察を行う等、講座での教材として活用した。

ウ 普及活動強化推進事業（令和２～４年度）

枝物・草花産地の先進事例調査を行い、栽培技術の実際、産地形成手法等の調査を行った。

３．具体的な成果（詳細）

（１）本講座受講者の増加（表１）

年数を重ねるにつれて、受講者が増加している。受講者からの紹介や口コミでの参加申込があり、本講座の趣旨に対して関心の高さが伺えた。また、入門編を受講した受講生のほとんどが、実践編にも参加している。

表１ 本講座受講者数の推移

	入門編	実践編	合計
令和２年度	35	-	35
令和３年度	19	47	66
令和４年度	16	63	79

(2) 推奨品目の選定及び現地普及の拡大 (表 2)

ア 枝物はアメリカリョウブ、コバノズイナおよびヒュウガミズキの3品目を選定した。これら3品目の増殖方法の調査・検討の結果、簡易的かつ実用的な方法を確認し、栽培マニュアルにまとめた。この方法を本講座「実践編」の中でも指導し、現地への植栽を進めている。

イ 草花はパンパスグラスを選定した。パンパスグラスは非常に強健であり、粗放的な管理でも十分生育する草花品目である。また、近年は卸売市場への出荷が急伸している品目でもある。

表 2 夷隅管内での枝物・草花の植栽状況※

品目	栽培者数	植栽本数
アメリカリョウブ	6	42
コバノズイナ	8	102
ヒュウガミズキ	6	42
パンパスグラス	22	291

※ 令和4年4月時点

ウ パンパスグラスは、本講座でいち早く植栽を推進した品目であり、令和4年に初収穫・初出荷する生産者が3名でてきた。地元JAを通じての卸売市場出荷をするにあたり、パンパスグラスの収穫・調整方法や荷姿の検討を行い、将来の枝物・草花の出荷体制の構築を行う上での足がかりとなった。



写真2 パンパスグラス卸売市場への初出荷

4. 農家等からの評価・コメント

定年世代の受講者からは「夷隅の自然を活かして、葉っぱビジネスのような取り組みをしてみたかった」、「枝物が育って出荷するのが楽しみ」などの感想をいただいた。新規就農の受講者からは「経営品目の一つに枝物を加えたい」といった意見もいただいた。

5. 普及指導員のコメント

(夷隅農業事務所改良普及課 上席普及指導員 松野 健二)

「耕作しきれない農地を活用する方法を探している。」「草刈りだけするだけなら枝物を植えてみよう」等々、受講者の枝物・草花栽培に関する関心の高さが伺えた。枝物・草花栽培が、農村が抱える課題を解決する一つの選択肢になることを期待している。

6. 現状・今後の展開等

本講座を通じて、栽培者の発掘・育成から現地拡大を図る品目の選定など、枝物・草花栽培の産地化への道筋づくりを行うことができた。枝物3品目については植栽が始まったところであり、パンパスグラスは出荷が始まっているが、その本数は少ない状況である。枝物・草花栽培の更なる拡大のため、本講座受講者と植栽面積の拡大を確実に進めていくことが必要である。